

## 岡村繁先生弔辞

東, 英寿  
九州大学大学院比較社会文化研究院 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1650637>

---

出版情報 : 中国文学論集. 44, pp.40-42, 2015-12-25. 九州大学中国文学会  
バージョン :  
権利関係 :

## 岡村 繁先生 弔辞

岡村 繁先生、謹んでご逝去を悼み、生前の温かいご指導に対し、あらためてお礼申し上げます。

私は、九州大学文学部に進学して以降、修士課程修了まで中国文学研究室で五年間先生にご指導頂きました。私の修士論文の審査終了と同時に、先生が定年で九州大学を退職されましたので、私は九大時代の先生の最晩年の教え子になります。

先生の授業については特に『文選』の演習が忘れられません。字句の異同、典拠の確認、版本の違い等、精読するために何をなすべきかを徹底的に学びました。たとえば、用いられている助字一字を疎かにすることなく、むしろその助字が用いられている意味を積極的に考えるなど、あらゆる要素を詳細に検討するので、一回の演習でわずか数行しか進まないこともありましたが、この『文選』の演習を通して中国文学研究の基礎を知らず知らずのうち身に付けることができました。これが現在の私たちの研究の基盤となっています。

また、先生の論文からは多くのことを学びました。これまで、何も疑うことなく当然と思われていた通説を、先生は一気にひっくり返してしまわれます。全く思ってもいなかった観点から鋭く切り込まれ、しかも極めて緻密な考証で説得力があります。その細心にして大胆な論理展開に、私は先生の論文を読むたび、いつも驚き興奮しました。先生の論文の文章表現も大いに学びました。先生がしばしば使用される表現である、考証を積み重ねて結論を打ち出す際の「だとすれば」、さらには「かかる方法」や「かかる視点」のような「かかる」という表現を見習い、実はそうした表現を多くの論文に使用しました。先日、ある学会で、他の大学の院生から私の論文中の「かかる」という表現がわかりやすく、それに感動して自分もまねをしたと言われましたが、実はそれは岡村先生の論文の文

章表現に由来するもので、先生の影響はかくも大きなものがあります。

毎年正月三日には、門下生が先生のご自宅に年始の挨拶に行くことが恒例となっていました。私も院生になって以降、九大に在籍している間は毎年参加しました。お昼から夜遅くまで、お節を食べべつ、お酒を飲みながら、先生と思う存分にお話ができたのも楽しい思い出です。先生からは戦争で出征した話や、広島文理大学、京都大学人文研での読書会、名古屋大学、東北大学等のそれぞれの時期の様々な逸話を色々と窺うことができました。我々が書物で多くの教えを蒙っている斯波六郎、吉川幸次郎、平岡武夫、入矢義高の各先生と、岡村先生が交流されたお話を聞くたび、何度も耳をそばだてたものでした。私は酔った勢いで、先生に失礼な事を話したこともあったと思いますが、先生は終始にこやかに「そうか、東君」と関西弁のイントネーションで、いつも肯定的に対応されたことを懐かしく思い出します。

先生は、卒業式には自作の漢詩を色紙に書いて卒業生に送ることを常とされてきました。私が修士課程を卒業する際には、『九重山荘に卒業生を餞す』と題する七言律詩が書かれた色紙を頂きました。卒業式前の三月上旬、岡村先生と学生全員が参加する九大中文研究室恒例の九重合宿をテーマとされた律詩です。その詩の中には、卒業する学生一〇名の名前が一字ずつ巧みに配置されており、私の名前の一字は第二句目「茂才 英彦 酔いて春を探る」の「英彦」に使用されており、この先生直筆の色紙は今でも額縁に入れて飾り大切に保存しています。

ご逝去される前に、先生が明治書院から出版された『白氏文集』が送られてきました。先生は、世界で初めて唐代の白楽天の全集七五巻全ての日本語の訳注をなさるといふ、後世に残る大きな仕事をなさっていました。我々門下生が下書き原稿を作り、私もその一部を担当しましたが、実力のなさから困難を窮めて、ある時岡村先生にとっても私にはできませんとお話ししたところ「東君、君が担当する策林部分は、君が世界で初めての訳注者や。じっくりと腰を据えて取り組めばええ」と、いつも通りの関西弁の暖かい言葉で励まされました。その言葉に甘えじっくり取り組んだせいか一〇年近くかかりましたが、完成した下書き原稿をお送りしたところ、先生から真つ赤に修正された原稿が返却されて来ました。真つ赤な修正の文字の間から先生の思考の一端が窺えて大いに勉強になり、非常に得たい経験でした。また、岡村先生は、全一六冊の刊行が終了したら、盛大な打ち上げをすとおっしゃっ

ていました。ご逝去の前日に送られて来た『白氏文集』で一二冊目となります。残りあと四冊、盛大な打ち上げをできないままに、この度の突然の訃報、いまだに信じられない思いです。『白氏文集』が全て刊行された暁には、天国の先生と一緒に盛大な打ち上げをしたいと思えます。

岡村先生のお導きにお導きに心より感謝いたしますとともに、安らかに永遠の眠りにつかれる事をお祈りいたします。

東 英 寿

(補記)

二〇一四年十二月二十八日の葬儀での弔辞文に基づきつつ、『中国文学論集』に収録するに当たり修正を加えました。